

罰金ヲ輕懲罰ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得ル儀ト心得可シ此旨相達候事(刑法第二十條參看)

千百二十八

看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改
○看守及監獄備人分掌例 二十二年六月二十六日
内務省訓令第二十九號 府縣自治監假留監

第一章 看守ノ職務

- 第一條 晝夜交番シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ
- 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
- 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
- 第四條 在監人ノ郷貫、氏名、年齢、罪質、刑名等ヲ記認スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ
- 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
- 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫リニ部外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ
- 第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ
- 第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
- 第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
- 第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

爲スヘシ

- 第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
- 第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十三條 密室監禁者及屏禁、閑室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ
- 第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不良ノ所爲ナカラシムヘシ
- 第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ遲ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外ニ出スコトヲ得
- 第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ
- 但事急遽ニ出テ擱キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第十九類 第一章 看守監獄備人

千百二十九

第二十一條 在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條 監房、炊場、浴場、廁園、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十三條 押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ觀察シ若シ相狂ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條 監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條 在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ路人ト聲語シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十六條 在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ

第二十七條 文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二章 教誨師ノ職務

第二十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ專ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條 新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ共者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條 在監人ノ起居、動靜、勤怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條 監房ヲ巡迴シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條 懲治人ノ就學、年月卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十三條 在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報答スヘシ

第三十四條 獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ觀察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條 受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セントキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條 授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條 特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報答スヘシ

第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條 已決囚漸ニ入監スルルハ其體質ヲ検査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡廻シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ閤室等ノ懲罰ニ處セラルヘキモノヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受ケヘシ

第四十九條 患者癡篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

第四章 女監取締ノ職務

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 監守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第五章 押丁ノ職務

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ從事スヘシ

第十九類 第一章 看守監獄備人

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ検査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヲ受ケ食物ノ配與獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒヲ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防具等ヲ看守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルトキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ

第七十七條 炊場浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六十條 授業手ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ

第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ

第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ

第八十一條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ

第八十二條 役業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ハ申告スヘシ

第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ

第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

看守長看守ニ帶劍ヲ許ス 十四年三月十八日 太政官達第十八號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

監獄看守長看守ニ爲取帶劍爲致此旨相達候事

但劍制ハ適宜タルヘシ

看守被服及帶劍給貸並保存期限 十四年四月十五日 警視廳府縣東京府ヲ除ク

本年第十七號第十八號ヲ以テ看守被服及ヒ帶劍之儀御達相成候ニ付テハ被服ハ適宜保存期限ヲ定メ給與シ帶劍ハ貸與候

儀ト可相心得此旨相達候事

○監獄署押丁給與品ヲ定ム 十四年三月三十日 集治監監獄署押丁給與品左ノ通相定候條此旨相達候事

一笠 笠頭 附用

一笠 笠 共用

一筒袖法被 白紺地

一筒袖法被 質木綿

一股引 同上

一雨衣 桐油

一雨衣 色黒

第十九條 第一章 看守監獄備人

千百三十五

一 縛繩
一手帖
一 呼子笛

○集治監假留監典獄書記看守長獄醫旅費支給方ヲ定ム
二十年二月十八日 内務省訓令第十號 集治監假留監 集治監及假留監官制規定候ニ付テハ典獄副典獄書記看守長獄醫ノ旅費ハ明治十九年六月閣令第十号内國旅費規則ニ據リ官等相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

○集治監假留監看守人員及俸給ヲ定ム
二十三年十月十日 勅令第二百二十八號

御名 御璽

勅令第二百二十八號

集治監假留監看守ノ人員及俸定ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 看守ノ人員ハ在監人五百名ニ付七十五名トス
但三池集治監及北海道ニアル各集治監ニハ此定員ノ外五十名以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得
- 二 在監人五百名ヲ超ユルトキハ百名ヲ増ス毎ニ看守十名ヲ加ヘ五百名ニ滿タサルトキハ百名ヲ減スル毎ニ看守十名ヲ減ス
- 三 看守人員ノ増減ヲ行フハ在監人ノ員數ニ百名ノ差ヲ生シタルトキニ於テスヘシ

- 四 看守俸給ハ月俸拾圓以下六圓以上トス但勤績滿九年以上ノ者ハ拾貳圓滿十二年以上ノ者ハ拾五圓ヲ給スルコトヲ得
- 五 在監人ノ減少ニ由リ過員トナリタル看守ハ休職ヲ命シ現俸ノ三分一ヲ給スルコトヲ得但休職ハ一年ヲ期トス期滿ツレハ其職ヲ免ス

○府縣看守俸給ノ件
二十三年十月十日 勅令第二百二十九號

朕應府縣看守俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

勅令第二百二十九號

勅令第二百二十八號集治監假留監看守人員及俸給ノ件中俸給及休職ニ關ル規定ハ廳府縣看守ニモ適用ス

- 看守押丁賞與方(上卷第四類第一二章ニ載ス)
- 巡查看守精勤證書授與規則(上)
- 警部消防指令看守長等官等俸級改正(上)
- 巡查看守俸給支給規則(上)
- 巡查看守給助令(上)
- 巡查看守給助條例施行前二年以上在職者退職ノ時慰勞金支給方(上)
- 巡查看守給助例第二條第一項勤績判註心得方(上)

第十九類 第一章 看守監獄備人

- 巡查看守給助施行期限(上同)
- 巡查看守給助例中年金支給方(上同)
- 警察官吏司獄官吏内國旅費概則(上同)
- 警察官吏等官船へ乗込出張ノ節食草料支給方(上同)

第二章 囚人

○囚人護送手續十五年二月一日
太政官達第十號内務省開拓使警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
 明治六年^{十一月}第三百九十一號並同十年^{七月}第四十九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾ノ廉ハ同日限リ廢止ス此旨相達候事
 (別冊)

囚人護送手續

- 第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監へ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ
 但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得
- 第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脫走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ
 但入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス
- 第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署へ遞報スヘシ
- 第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ細取ノ人員ハ適宜タルヘシ

但便利海路ニ依ルトキハ適宜囚人ヲ増加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス。

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及著發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルトキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルトキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルトキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ衛署ニ遞付シ仍ホ發出衛署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出衛署及ヒ達スヘキ衛署へ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スマ他囚護送ヲ遅緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

但細取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲クル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲タル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金銀物品埋葬費ニ足ルモノアル者及陸軍隊付下士卒海

軍下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤其費額ハ都テ拾圓以内タルヘ

シ但下士卒ノ分ハ追テ陸軍省海軍省ヨリ各自ニ拂戻スヘシ(十五年第六十八號公達ヲ以テ全條改正)

第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿ニ賄臥具點燈手数料ヲ併セテ金貳拾五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム十四年三月八日布告第十七號

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯罪刑期五年以上ノ者トス其費用府縣獄ニ擧留中ノ費用并ニ集治監ニ移送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ(地方稅規則第三條第十八十九項參看)

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方十四年七月二十一日內務大藏兩省達シ第三十四號警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)集治監

本年第十七號公布ヲ以テ已決四二係ル經費區分等條定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事
一 檢算ヲ以テ受入レタル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕附置每一ヶ月囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給發給費理郵費寫眞費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スベシ
一 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方 十四年九月一日

本年第十七號公布ニ係ル費用ハ當者ニ於テ管理條條公布第一條國庫下附金ハ當者ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等項テ當者ヘ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費小科目流用方 十五年十月十四日

在府縣獄囚徒費小科目(獄費已決四) 彼此流用支辨セントスルトキハ當者ヘ伺問候條ト可相心得此旨相達候事
但本件伺問候條ハ金員任課添付スヘシ

○監獄不用品賣拂代金看守留俸等國庫地方稅收入區分方 十六年九月二十七日

空知三油ノ三監ヲ除ク(府縣(東京府)及沖繩函館札幌根室ノ四縣ヲ除ク) 國庫下付金及地方稅受ケスレ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省達シ第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用物品賣拂代金及看守留俸金等納入方ノ國庫地方ノ區分計算法ニ據ラヌ十五年度以降集治監ニ生セシモノハ總テ國庫ヘ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入セシメ候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費取扱方 十七年六月十二日

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定條條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事
但十四年七月內務大藏兩省達シ第三十四號同年九月七日第五拾三號之達ハ十六年度限リ廢止ス
一 集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切(從前ノ獄費已決四)費用トシテ一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ
但朝夕出入アルモノ各一日ヲ以テ計算スヘシ
一十四年十月七第五十三號達之内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告済人員ニヨリ左ノ科目製ニ照據豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
但十七年度分ハ差出スニ及ハス

(科目表略之)

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方 二十三年十月三十一日

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ押送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○陸海軍軍法會議ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚徒ノ費用支辨方 十九年一月二十九日

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ劊官ヲ附加シタル轉錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役轉錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以後軍法會議所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
但從前陸海軍軍籍ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑懲獄ノ刑ニ處セラレタル費徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相違ス

千百四十四

○在府縣獄囚徒費用交付金地方稅編入方二十一年九月二十九日内務省訓令第十九號警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)
明治十七年本省し第二十九號達ニ據リ集治監ニスルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會
ノ議決ヲ經地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

●沿革要領

明治六年十一月第三百九十一號達ヲ以テ囚人護送規則ヲ定ム○八年五月第七十八號達ヲ以テ囚人護送途中賄賂賭博
錢等官費支給セシム○十年七月第四十九號達ヲ以テ脱走ノ軍人軍屬其他ノ囚徒自今沿道警察署ニ於テ護送セシ
ム○十五年二月第拾號達ヲ以テ囚人護送手續ヲ定メ其護傳方ヲ改正シ従前ノ違中矛盾スルモノハ廢止トス

本日規則全書下卷終

本日規則全書追録(二十四年五月一日ヨリ同
月十四日迄ノ分ヲ蒐録ス)

○廳府縣令ニシテ司法事務ニ關係スルモノニ限り發布ノ都度司法省并

ニ其管内ニ在ル各裁判所控訴院ニ報告方二十四年五月一日
司法省訓令第二號警視廳北海道廳府縣

廳府縣ニ於テ發布スル廳府縣令ハ其司法事務ニ關係スルモノニ限り發布ノ都度當省ヘ報告
シ且ツ其管内ニ在ル地方裁判所區裁判所及ヒ其地ヲ管轄スル控訴院ヘ報告スヘシ

但明治十五年四月司法省丙第十五號達ハ廢止ス

○コッホ結核病治療液(テニベル
グリン)ハ官立府縣立病院ニ限り使用ヲ得二十四年五月二日
内務省令第三號

コッホ結核病治療液(テニベル
グリン)ハ官立府縣立病院ニ限り使用スルコトヲ得其他病院若ク
ハ醫師ニシテ相當ノ準備アル病室ヲ有スル者之ヲ使用セントスルトキハ豫メ地方長官ヲ經
由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ内務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認
可セサルコトアルヘシ

該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得ス

地方長官ハ該液ノ使用ニ關シ特ニ監督者ヲ派出シテ臨檢セシムルコトアルヘシ

該液ヲ使用シタル者ハ左ノ書式ニ依リ其使用終結ニ至リタル患者ノ治驗表ヲ製シ毎月内務
大臣ニ報告スヘシ

本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處ス

追録

年月日調
結核病治療液治療表
第號 患者 病名

醫師 住所 氏 名 印
職業 男 何 某
年 齡

成 績	諸 反 症 應	注 入 ノ 月 日 及 其 量	既 往 症 及 現 在 症

既往ノ病歴ヲ入前ノ現症及ヒ結核菌ノ有無ハ既往症及現在症ノ欄下ニ注入後ノ體温呼吸脈搏ノ狀況惡寒戰慄頭痛惡心發疹倦怠等ノ諸症ハ及應諸症ノ欄下ニ體温ノ増減及ヒ全治輕快無効死亡ハ成績ノ欄下ニ記スヘシ

○林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劍ノ制
四年五月二日
勅令第四十四號

朕林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劍ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

勅令第四十四號

林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守制服並ニ帶劍ノ制左ノ圖表ノ通定
但林務官林務官補營林主事ハ明治二十四年十二月三十一日迄ハ従前ノ著服ヲ用フルコト
ヲ得營林主事補森林監守ハ當分ノ内腕章ヲ附シタル衣ニ制帽ト劍ノミヲ用ヒ且其劍ハ適
宜之ヲ撰用スルコトヲ得

林務官以下制服圖例(略)

○人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電信取扱所配達人ヨリ
賃錢請求不相成事
二十四年五月二日
內務省訓令第六號北海道廳府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治二十一
年十二月第二七號ヲ以及訓令置候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者モ同様賃錢請求不相成ニ付此
旨更ニ免許人江示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第號
何國
○何地電信取扱所配達人
何ノ誰

曲尺二寸

○明治年月日
何何何
取電何何
取所信地國

追録

○御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ル該社寺ニシテ委託出願方二十四年五月七日
宮内省告示第九號

御料地ノ内社寺ノ上地ニ係ルモノハ該社寺ノ出願ニ依リ本年四月農商務省令第五號社寺上地官林委託規則ヲ適用シ之ヲ委託スルコトアルヘキニ付委託ヲ請ントスル社寺ハ左ノ區別ニ從ヒ出願スヘシ

- 一 御料局支廳又ハ事務所ノ所管ニ屬スル御料地ニ對シテハ該支廳長又ハ事務所長
- 一 地方廳ニ委託シタル御料地ニ對シテハ該地方長官
- 一 以上列記外ノ御料地ニ對シテハ總テ御料局長

○小學校令ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ム二十四年五月八日
文部省令第三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第九十五條ニ基キ正教員准教員ノ別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條 左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科正教員若クハ本科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一 明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二 明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ

三 明治十九年六月文部省令第十二號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字、算術、地理及歴史ノ七科ヲ教授シ得ヘキモノ

四 明治十九年八月文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル中等若クハ高等師範學科卒業證書

五 明治二十二年十月文部省令第七號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシタル小學校師範學科卒業證書

第二條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間高等小學校正教科ノ本科准教員タルコトヲ得但第二款免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一 明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二 明治二十二年十月文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三 明治十九年八月文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年八月文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術

術、地理、歴史、理科、博物ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治二十年^八文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第三條 左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第四款若クハ第五款ニ掲クル卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期間高等小學校正教科ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治十九年^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタルモノヲ除ク

二明治二十二年^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル高等小學校ノ教員免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル高等科免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第四條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期間高等小學校正教科ノ專科准教員タルコトヲ得但第二款ノ免許狀ヲ有スル者ハ女兒ノ教授ニ限ル

一明治二十年^八文部省令第七號ニ依リ授與シタル高等小學校教員假免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第五條 左ノ免許狀若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期間尋常小學校ノ本科正教員若クハ本科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^六文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二明治二十二年^十文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^六文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有効ノモノトシ若クハ明治二十年^八文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ少クトモ修身、讀書、作文、習字及算術ノ五科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治十九年^{十二}文部省令第二十三號ニ依リ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトシ若クハ明治二十年^八文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル初等、中等若クハ高等師範學科卒業證書

五第一條第五款ニ掲クル卒業證書

第六條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^{六月}文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十二年^{十月}文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^{六月}文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有效ノモノトシ若クハ明治二十年^{八月}文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科^{博物}ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

四明治二十年^{八月}文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ修身、讀書、作文、習字、算術、地理、歴史、理科ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第七條 左ノ免許狀ヲ有シ十箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在ル者及第一條第五款若クハ第五條第四款ニ掲クル卒業證書ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科正教員若クハ專科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^{六月}文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、手工ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ但同規則第十四條ノ規程ニ依リ授與シタル授業生免許狀ヲ除ク

二明治二十二年^{十月}文部省令第十一號ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三明治十九年^{六月}文部省令第十三號ニ依リ從前ノ通有效ノモノトシ若クハ明治二十年^{八月}文部省令第六號ニ依リ有効年限ヲ延期シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、工業ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

第八條 左ノ免許狀ヲ有スル者ハ其有効期限間尋常小學校ノ專科准教員タルコトヲ得

一明治十九年^{六月}文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依リ授與シタル免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、手工ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

二明治二十年^{八月}文部省令第七號ニ依リ授與シタル小學校教員假免許狀ニシテ圖畫、唱歌、體操、裁縫、手工ノ一科若クハ數科ヲ教授シ得ヘキモノ

三第七條第二款若クハ第三款ニ掲クル免許狀

第九條 府縣知事ハ本令ノ規程ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○區裁判所出張所管轄區域表中改正 二十四年五月十四日 司法省令第二號

明治二十三年^{八月}司法省令第四號區裁判所出張所管轄區域表中左ノ通改正ス

一東京地方裁判所管内下谷區裁判所日暮里出張所ヲ削除シ其管轄町村ヲ同區裁判所千住出張所ノ管轄トス

一金澤地方裁判所管内輪島區裁判所門前出張所ヲ櫛比出張所、粟藏出張所ヲ町野出張所ト改ム

明治二十四年五月十五日印刷并出版



印刷兼
發行者

兵庫縣土族

長尾景彌

東京市芝區西久保
茸手町壹番地寄留

東京銀座四丁目	博聞本社
大坂備後町四丁目	博聞分社
千葉縣千葉町	博聞分社
福岡縣博多中島町	博聞分社
佐賀縣佐賀新馬場	博聞社代理店
兵庫縣龍野町	博聞社代理店

所	賣	販
東京神田南神保町	博弘堂	函館末廣町
東京神田裏神保町	明法堂	長崎引地町
東京神田表神保町	中西屋邦太	尾州名古屋本町
東京神田表神保町	八尾書店	尾州名古屋本町
東京日本橋通三丁目	丸善書店	信州長野
東京日本橋通四丁目	牧野善兵衛	駿州静岡江川町
東京日本橋通一丁目	大倉孫兵衛	陸前仙臺大町
東京日本橋區新大坂町	小林喜右衛門	陸中盛岡
東京本郷六丁目	哲學書院	越後長岡
東京麴町三丁目	文海書院	加州金澤
東京京橋區尾張町	共益海商社	越中富山
東京京橋區三十間堀	東海堂	甲州常磐町
東京京橋區三十間堀	良明堂	濃州岐阜
東京京橋區彌左衛門町	熱田弘文堂	陸奥弘前土手町
大阪本町四丁目	岡島七堂	紀州和歌山北町
大阪心齋橋通三丁目	松村九兵衛	備前岡山
大阪備後町四丁目	吉岡平助	備前岡山
西京東洞院三條上ル	村上勘兵衛	雲州廣島大手通
西京佛光寺通鳥丸東へスル	東枝吉兵衛	伊豫松山港町
西京河原町通	大黒屋大郎右衛門	伊豫松山港町
西京寺町通五條上ル	飯田信文堂	阿波徳島
横濱辨天通	丸屋書店	肥後熊本
神戸相生橋東詰	熊谷久榮堂	薩州鹿兒島
		魁野文社
		鶴野常藏
		片野東四郎
		川野源代郎
		西澤喜太郎
		廣瀬市助
		木村文助
		東野北堂
		目野一平
		牧野書店
		中藤傳右衛門
		内藤傳右衛門
		三浦源助
		野崎九兵衛
		津田源兵衛
		森源藏
		細源藏
		早山喜三右衛門
		園山喜三右衛門
		土肥與平
		向井藏次郎
		阪井萬吉郎
		長崎次郎
		吉田幸兵衛

博聞社發行書目摘要

(但詳細ノ書目ハ御申込次第進呈ス)

長尾景彌編纂

●**日規則全書** 自治治元年一月 全二冊 正價金壹圓四十錢 重量五百五

●五十部以上一割引●郵税ハ三十八錢運送便ハ官錢先拂トス●製本ハ假表紙トス●製ハ紙拾錢増

本誌ハ官民一般ニ關スル現行ノ法令ヲ類聚シテ而シテ其改廢追加及ヒ消滅ニ係ル者ハ悉ク之ヲ訂正シ又沿革要領ヲ掲ケテ其沿革ヲ明ニシ勉テ完備ヲ期ス但憲法民法刑法民法訴訟法刑法訴訟法及ヒ附隨ノ法令ハ當社出版ノ六法全書ニ載リテ之ヲ畧ス蓋シ該書ノ行ルハ既ニ久シク或ハ之ト重複シテ不用ニ屬セシムルニ因ルナリ且又○官制職制俸給及ヒ官吏ニ關スル諸則○陸海軍部内ニ關スル諸則○會計出納ニ關スル諸則ハ一部分ニ屬シ一般ニ於テ或ハ必要ナキ向モアラン山テ本編ノ附録トナシ追テ各冊ヲ單行シ特ニ需用アル諸君ノ求ニ應セント欲ス

長尾景彌編纂

●**日六法全書** 二十四年 全二冊 正價金七十五錢 重量三百々

●五十部以上一時ニ御注文ノ向エハ一割引●郵税ハ上下共各金十錢但運送便ハ運賃先拂●製本ハ紙表紙トス●合本惣クローヌ上等製ハ金十錢●郵券代用ハ一割引●官衙ノ名義ニテ御注文ノ外ハ惣テ前金申交ヘレ

本誌ハ憲法民法刑法民法訴訟法刑法訴訟法ノ六法ヲ彙輯シ附スルニ皇室典範議院法衆議院議員選舉法會社法貴族院令裁判所構成法執達規則行政裁判法及ヒ附隨ノ法律及國會令ヲ以テスルモノナリ抑モ本誌ハ昨二十年十一月初テ出版セシ所ハ幸ニ非常ノ好評ヲ得テ其發行高數萬部ノ多キニ至レリ是レ深ク愛顧諸君ニ謝スル所ナリ然ルニ爾來六法ニ關スル法令ノ發布頗ル多キヲ以テ今敢更ニ之ヲ増訂再版ス但舊本購求アル諸君ノ爲ニ増訂ノ分ヲ一冊トシ郵券三錢ヲ得テ發行ス

内閣官報局編纂

往既法令全書

本書ハ維新以來發布ニ係ル勅令開省令訓令達告示伺指官法制局裁定ハ勿論陸軍省令七號等官報ニ掲載セサル者モ亦之ヲ纂輯シ而シテ改廢加除アルモノハ上層ニ標記シテ其沿革ヲ知ルニ便ナラシメ又索引ハ數年分ヲ合セテ別冊ト爲シ之ヲ刊行シ現時發行ノ法令全書ニ接續シ法律規則ヲ大成セラル、モノナリ

○元年分	〔並製金六十五錢〕	○十一年分	〔並製金六十五錢〕
○二年分	〔並製金六十五錢〕	○十二年分	〔並製金六十五錢〕
○三年分	〔並製金六十五錢〕	○十三年分	〔並製金六十五錢〕
○四年分	〔並製金六十五錢〕	○十四年分	〔並製金六十五錢〕
○五年分	〔並製金六十五錢〕	○十五年分	〔並製金六十五錢〕
○六年分	〔並製金六十五錢〕	○十六年分	〔並製金六十五錢〕
○七年年分	〔並製金六十五錢〕	○十七年分	〔並製金六十五錢〕
○八年年分	〔並製金六十五錢〕	○十八年分	〔並製金六十五錢〕
○九年年分	〔並製金六十五錢〕	○十九年分	〔並製金六十五錢〕
○十年分	〔並製金六十五錢〕	○二十年分	〔並製金六十五錢〕

○廿一年分

〔並製金二圓九十五錢〕

○廿三年分

〔並製金貳圓四錢〕

○廿二年分

〔並製金二圓九十五錢〕

以上自元年 定價合計

並製金二十六圓九十錢
上製金三十三圓九十錢

●代價ハ一回或ハ數回ニ分テ御排込アルモ普カラス但其金額ニ應テ送本スヘシ●荷造運賃ハ實費申交クヘシ●本文ハ並製トアルハ本綴紙表紙ニシテ本綴ハ脊皮金字入惣ク羅斯製ヲ云フ特ニ上製御注交コレナキ向エハ並製ヲ發送ス●十八年以降ノ分ハ分冊ニテモ發賣ス●郵便爲替ハ東京郵便局又ハ芝口郵便局エ宛テ御排込アリタシ●郵券代用ハ一割増トス

法令全書廿四年分 每月一册出版

●一册定價金十錢●郵税金一錢五厘●惣目録索引ハ無代價但郵税金二錢五厘ヲ要ス
右ハ毎月出版ス御入用ノ向ハ半ヶ年分前金郵税トモ合セテ金六十九錢御送附アリタシ但郵便爲替ハ前項ノ概合ニ依リ御取付ヒアラシテ可ク

類聚法規 自初編 目錄共全四十一册 自明治元年 正價金五十圓

●製本脊皮惣ク羅斯製トス●荷造運賃ハ別ニ申交クヘシ
維新以降官省ノ法令ハ勿論訓令告示ニ至ル迄盡ク之ヲ類聚シテ漏サス而シテ其改廢ヲ訂正シテ龍頭ニ登看ヲ掲ケ以テ沿革ヲ明ニス實ニ本邦大成ノ類典ナリ

類聚法規 第十二編目錄共全四卷 豫約價金五圓五拾錢

●上等製ハ登圓増
右ハ二十二年分ナリ編纂印刷ノ体裁ハ前編ニ同シ

●日本類典第二編 自廿二年四月 全二册 正價金壹圓五拾錢
五十部以上一割引 郵稅ハ三十二錢 通運便ハ貨錢先拂トス ●製本ハ忠クロース製 重量四百八十匁

●同上附錄 民法 民事訴訟法 全一册 正價金六拾錢
郵稅金十六錢

本誌ハ昨二十三年五月中正版スヘキ旨曾テ廣告セシ所口恰モ當時新法典ノ陸續發布アルニ際レ又次クニ國會ニ於テ法律
ノ改正頻繁ナル如キノ觀アルヲ以テ其時機ヲ待チ今日ニ至レルハ止ヲ得サルニ因ルナリ之ヲ諒セラレシテ印刷
刷ノ体裁ハ前編ト異ナルヲナシ而シテ新法典ヲ附録トセシハ頗ル浩濶ニシテ一部ノ大冊ヲ成シ既ニ當社ニ於テ發
行ノ法令全書附録及ヒ六法全書アリ或ハ之ト重複シテ不用ニ屬センヲ恐ルル仍テ之ヲ別冊トスル所ナリ ○本誌ハ舊版日
本類典第四編ニ接續シ即チ第五編ニ該當スル者ナリ
地方制度取調委員内務次官芳川顯正君序文 ○獨逸法學博士法制局
參事官山脇玄君 ○法制局書記官水野達君校訂 ○片貝正君註釋

●市町村制正解 附理由 全一册 上製正價金七拾五錢 重量百七拾五匁
並製正價金五拾錢 重量九拾六匁

●市町村制實質問錄 全一卷 正價三拾錢 (製本ハボロ) 重量七拾匁
凡ハ市町村制實質問錄ト共ニ購求ノ向ヘハ上製ハ金拾五錢並製ハ金拾錢ヲ減ス ●荷造運賃ハ當社持
本誌ハ數名ノ學士ト謀リ平易ノ文章ヲ以テ註釋ヲ加ヘ凡テ注意ノ明也ヲ主トシ且毎條獨英漢佛ノ類例ヲ挿入シ以テ
彼我ノ參照ニ便ニス

●市町村制正解 出版シ宿官於テ質疑アラハ回答ノ勞ヲ取ラシト約セシニ爾來疑問回答積テ卷ヲ成セリ而シテ疑問
タル單ニ法交ノ解釋ニ止マラス實施ノ順序方法ニ涉ルモノアリ又同制ニ關スル各種ノ註釋中彼此說ノ異ナル所ヲ指摘
シテ其判明ヲ求ムルモノアリ因テ一々之ヲ詳論シ題メテ明也ヲ要セリ是ヲ以テ百般ノ疑義釋然問答ノ間々自カラ細微ノ
注意ヲ附設シ又餘蘊アルナシ

●日本行政法大意 全二卷 正價金一圓八十錢 重量二百八十六匁
我國古今制度ノ沿革ヨリ現行行政ノ諸法ヲ網羅シ以テ其義ヲ闡明シ歐米各國ノ制度ヲ附シ以テ參照ニ便ニス
樞密院議長伊藤伯著

●帝國憲法 義解 全一卷 正價金四十錢 重量七十匁
●皇室典範 義解 全一卷 正價金四十錢 重量七十匁
●製本惣クロース上製 ●通運便ハ貨錢先拂トス ●製本ハ忠クロース製
右ハ伊藤伯其依屬トシニ研習斷死ノ餘各條ニ註釋ヲ施サレシモノニシテ其意甚詳明又餘蘊アルナリ

●商法註解 全十册 (第三册既刊)
司法省參事官 本多康直君 共著
法律取調報告委員 今村信行君 共著
法律取調報告委員 木下周一君 共著
内閣法制局參事官 本尾敬三郎君 共著
法律取調報告委員 木下周一君 共著

●民訴訟法註解 全八册 (第四册既刊)
司法省參事官 本多康直君 共著
法律取調報告委員 今村信行君 共著
法律取調報告委員 木下周一君 共著
内閣法制局參事官 本尾敬三郎君 共著
法律取調報告委員 木下周一君 共著

●右二書トモ代價一冊金三十錢紙數二百頁トス ●一書ニ付十部以上ハ一割引百部以上ハ二割引トス ●一冊郵稅金三錢
トス通運便ハ貨錢先拂トス ●二書トモ紙數ハ大凡ノ見込ナルヲ以テ全部完成ノ節ハ多少ノ増減ヲ生シ隨テ代價ノ増
減アルヤモ計リ難シ因テ豫メ廣告ス
當社ニ於テ發售ニ豫告セシ通り取門ノ大家先生ニ應請シ右ノ方法ニ依リ新法典註釋書ヲ出版ス抑モ本書ハ法理ノ原則及ヒ
應用ヲ詳述シ又刑民ニ法蘭索引ヲ掲ケ及ヒ各條ニ參考ヲ附シテ引用ニ便ニス交際平易意義明瞭ニシテ何人ニモ通曉シ得
五

へキヲ期ス今ヤ世上ニ於テ新法典註解書ノ出版ヲ圖ル者頗ル多シ其精粗善惡ハ敢テ茲ニ喋々セス若シ本書ヲ購讀シテ其意ニ滿タサル向ハ二ヶ月内ニ返戻アルヘシ即チ代金ヲ返納ス

司法官試補澤井重蔵君著
再版
増訂民事訴訟實用 附書式七十餘種 全一冊 正價金四拾錢 原價九十文

本書ハ訴訟ノ始ヨリ終結ニ至ル迄實地應用ノ手續ヲ明カニセシ書ナリ又書式六十有餘種ヲ附スルモノナリ今般更ニ附訂ヲ加ヘ書式十數種ヲ追補シ再刷出版ス
西岡通明君題字○大審院評定官土師經典君校
大審院結裁判所書記佐本榮藏君編

舊令 附同指令 自 元年 正價金壹圓六拾錢 原價三百文
參照罰則全書 附同指令 自 廿一年八月 正價金壹圓六拾錢 原價三百文

明治元年ヨリ卅一年八月ニ至ル其間發布ノ法律規則中則アル現行法令ヲ輯録シテ本則トシ又現行法施行ニ關係ノ法令及ヒ取扱手續施行細則等并ニ改正前ノ舊法令其他同指令及ヒ大審院判決例ヲ參照トス

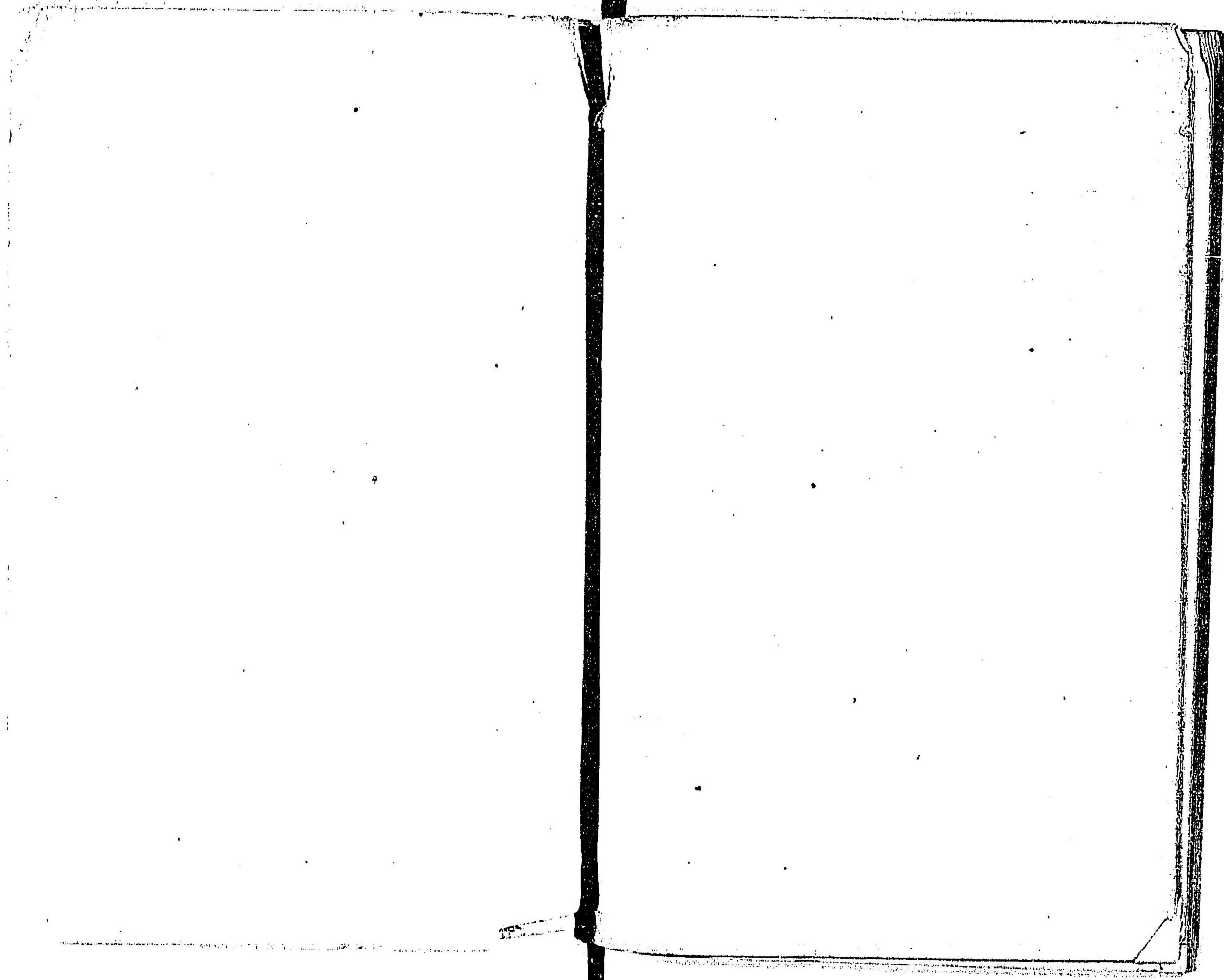
全 全後編 附同指令 自 廿一年九月 正價金八拾錢 原價
至 至廿三年十二月 正價金八拾錢 原價

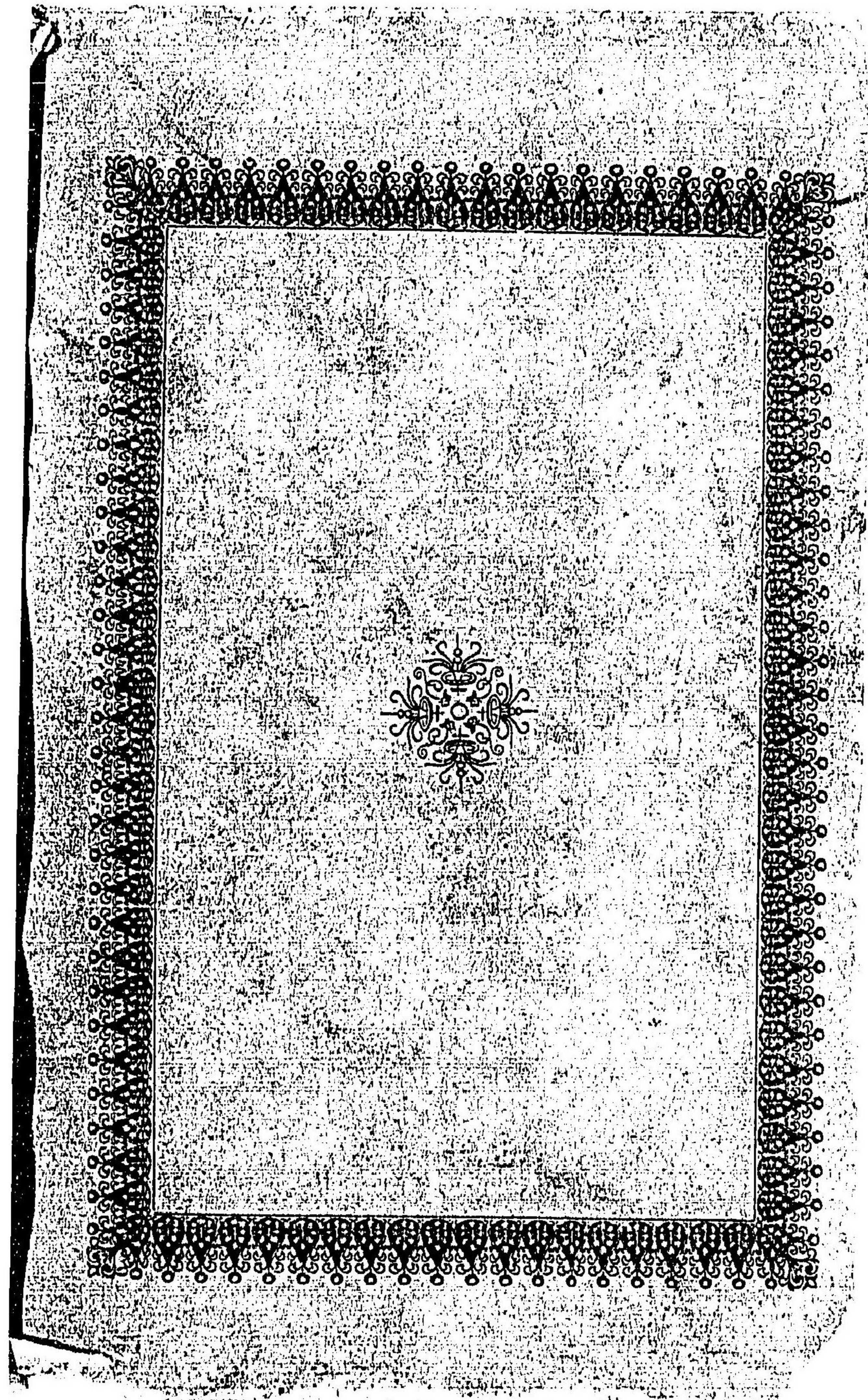
本書ハ廿一年九月ヨリ廿三年十二月ニ至ル其間發布ノ法律規則中則アル現行法令ヲ輯録セシ書ニシテ乃チ前編ニ續クモノナリ編纂印刷ノ體裁モ又前編ニ同シ

北島發弘君
石渡傳藏君 合著
德山銓二郎君

會計法釋義 全一冊 正價金三拾五錢 原價七十三文

新會計法ハ從來ノ面目ヲ一洗シ申創始ニ屬スルモノ多ク隨テ疑問百出解釋ニ苦ムモノ又少ナカラス本書ハ上巻注ヨリ下行政規則及ヒ學理ニ涉リ之ヲ實際ニ徹シ反覆丁嚙ニ注文ノ意義ヲ解釋シ實施ノ手續ヲ明セシ長書ナリ





禁電子式複写

031073-002-3

CZ-5-023

日本規則全書

長尾 景弼 / 編

M24-27

BBC-0679

